

産業廃棄物処理計画書

令和4年6月27日

福岡市長 高島 宗一郎 殿

提出者

住所 福岡市博多区博多駅前一丁目28番15号

氏名 福岡市水道事業管理者

坂本 秀和

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 092-521-6938

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

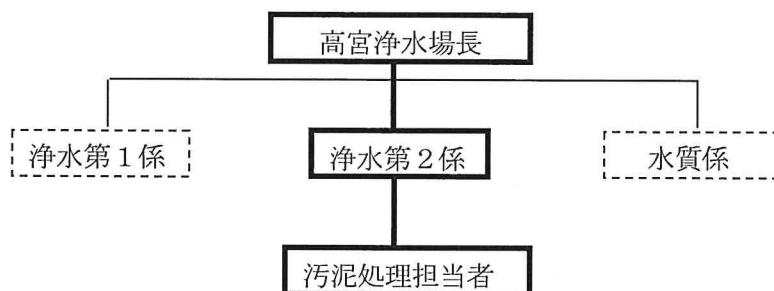
事業場の名称	福岡市水道局浄水部高宮浄水場
事業場の所在地	福岡市南区大池二丁目18-1
計画期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	上水道業
② 事業の規模	26,444,400 m ³ /年
③ 従業員数	34名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	<p>※ 上記は浄水汚泥の処理工程である。PCBは全量処理委託である。</p> <pre>graph LR; A[浄水工程] --> B[高宮浄水場 天日乾燥池]; B --> C[久山、新久山 スラッジ処分場]; B --> D[久山 天日乾燥場]; D --> C;</pre>

(日本工業規格 A列4番)



産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（ 3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	浄水汚泥	—
	排出量	9,888 t	— t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	浄水汚泥	
	排出量	7,000 t	
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)	—
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)	—

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 状況	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（ 3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	浄水汚泥	—
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	7,486 t	— t
	(これまでに実施した取組) 脱水（天日乾燥）による減量		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	浄水汚泥	—
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	4,500 t	— t
	(今後実施する予定の取組) 脱水（天日乾燥）による減量		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（ 3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	浄水汚泥	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	2,402 t	— t
	(これまでに実施した取組) 自己最終処分場への埋立		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	浄水汚泥	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	2,500 t	— t
	(今後実施する予定の取組) 自己最終処分場への埋立		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	全処理委託量	— t	— t
	優良認定処理業者への処理委託量	— t	— t
	再生利用業者への処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者への処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) —		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	全処理委託量	— t	— t
	優良認定処理業者への 処理委託量	— t	— t
	再生利用業者への 処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者への 処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

備考

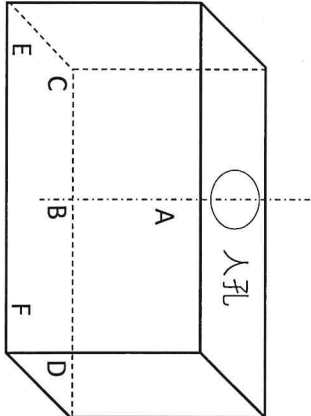
- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

環境測定表

令和 4 年 月 日 (曜日)

(測定記録者)

印

作業名										
箇所	深度(m)	測定項目	単位	1回目	2回目	事前処理				確認事項
						回数	測定時刻	携行品	器具	
		酸素	%			1回目	:	:	・保護具、墜落制止用器具 ・送風機、発動発電機	(例) 
		硫化水素	ppm			2回目	:	:	・ナルチガスター	
		可燃性	LEL%						・保安対策(立入禁止)を行ったか	
		酸素	%						・人孔蓋の解放(2ヶ所)を行ったか	
		硫化水素	ppm						・槽内(管内)の換気を行ったか	
		可燃性	LEL%						・酸欠及び有害ガスの測定を行ったか	
		酸素	%						・避難方法の確認を行ったか	
		硫化水素	ppm						・酸素濃度は18%以上か	
		可燃性	LEL%						・硫化水素ガス濃度は10ppm以下か	
		酸素	%						・可燃性ガス濃度はLEL30%以下か	
		硫化水素	ppm						・換気は良好か	
		可燃性	LEL%						・墜落制止用器具及び保護具の装着は良いか	
		酸素	%						・人孔内の出入り人員を確認したか	
		硫化水素	ppm							
		可燃性	LEL%							
		酸素	%							
		硫化水素	ppm							
		可燃性	LEL%							
		酸素	%							
		硫化水素	ppm							
		可燃性	LEL%							

産業廃棄物処理計画実施状況報告書

令和4年6月27日

福岡市長 高島 宗一郎 殿

提出者

住所 福岡市博多区博多駅前一丁目28番15号

氏名 福岡市水道事業管理者

坂本 秀和

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 092-521-6938

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第10項の規定に基づき、3年度の産業廃棄物処理計画の実施状況を報告します。

事業場の名称	福岡市水道局浄水部高宮浄水場
事業場の所在地	福岡市南区大池二丁目18-1
事業の種類	上水道業
産業廃棄物処理計画における計画期間	令和3年4月1日 ~ 令和4年3月31日

産業廃棄物処理計画における目標値

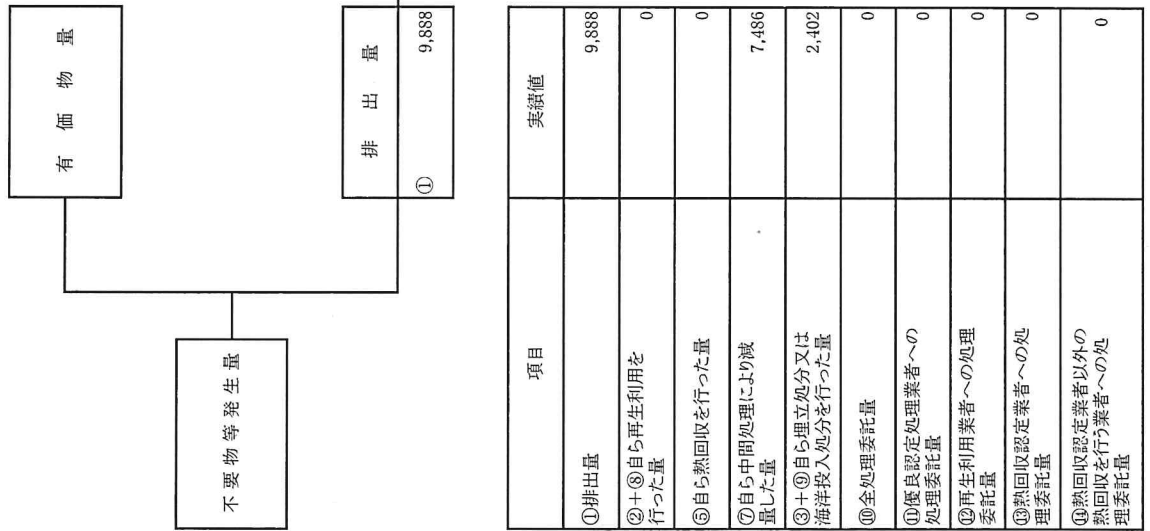
項目	目標値	項目	目標値
排出量	7,000 t	全処理委託量	0 t
自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	優良認定処理業者への処理委託量	0 t
自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	再生利用業者への処理委託量	0 t
自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	4,300 t	認定熱回収業者への処理委託量	0 t
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	2,700 t	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t

※事務処理欄



(日本工業規格 A列4番)

計画の実施状況 (産業廃棄物の種類: 浄水汚泥)



自ら直接再生利用した量	②	0
-------------	---	---

自ら直接埋立処分又は海洋投入処分した量	③	0
---------------------	---	---

自ら中間処理した量	④	9,888
-----------	---	-------

④のうち熱回収を行った量	⑤	0
--------------	---	---

自ら中間処理した後の残存量	⑥	2,402
---------------	---	-------

自ら中間処理により減量した量	⑦	7,486
----------------	---	-------

自ら中間処理した後再生利用した量	⑧	0
------------------	---	---

自ら中間処理した後自ら埋立処分又は海洋投入処分した量	⑨	2,402
----------------------------	---	-------

直接及び自ら中間処理した後の処理委託量	⑩	0
---------------------	---	---

⑩のうち優良認定処理業者への処理委託量	⑪	0
---------------------	---	---

⑩のうち再生利用業者への処理委託量	⑫	0
-------------------	---	---

⑩のうち熱回収認定業者への処理委託量	⑬	0
--------------------	---	---

⑩のうち熱回収認定業者以外の業者への処理委託量	⑭	0
-------------------------	---	---

項目	実績値
①排出量	9,888
②+⑧自ら再生利用を行った量	0
⑤自ら熱回収を行った量	0
⑦自ら中間処理により減量した量	7,486
③+④自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	2,402
⑩全処理委託量	0
⑩優良認定処理業者への処理委託量	0
⑫再生利用業者への処理委託量	0
⑬熱回収認定業者への処理委託量	0
⑭熱回収認定業者以外の業者への処理委託量	0

(第3面)

備考

- 1 翌年度の6月30日までに提出すること。
- 2 「事業の種類」の欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- 3 「産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載した目標値を記入すること。
- 4 第2面には、前年度の産業廃棄物の処理に関して、①～⑭の欄のそれぞれに、(1)から(14)に掲げる量を記入すること。
 - (1) ①欄 当該事業場において生じた産業廃棄物の量
 - (2) ②欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
 - (3) ③欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分又は海洋投入処分した量
 - (4) ④欄 (1)の量のうち、自ら中間処理をした産業廃棄物の当該中間処理前の量
 - (5) ⑤欄 (4)の量のうち、熱回収を行った量
 - (6) ⑥欄 自ら中間処理をした後の量
 - (7) ⑦欄 (4)の量から(6)の量を差し引いた量
 - (8) ⑧欄 (6)の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量
 - (9) ⑨欄 (6)の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量
 - (10) ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量
 - (11) ⑪欄 (10)の量のうち、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量
 - (12) ⑫欄 (10)の量のうち、処理業者への再生利用委託量
 - (13) ⑬欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量
 - (14) ⑭欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量
- 5 第2面の左下の表には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載したそれぞれの実績値を記入すること。
- 6 産業廃棄物の種類が2以上あるときは、産業廃棄物の種類ごとに、第2面の例により産業廃棄物処理計画の実施状況を明らかにした書面を作成し、当該書面を添付すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。